

屋久島世界遺産地域科学委員会 ヤクシカ・ワーキンググループについて

1 ヤクシカ・ワーキンググループの設置の目的

厳正な保護を図るべき屋久島世界遺産地域においてヤクシカの採食等により森林の植生や希少植物の生育等に悪影響が出ていることから、世界遺産地域におけるヤクシカ被害について対策を講じるにあたり、科学的知見に基づいた助言を得ることを目的として、屋久島世界遺産地域科学委員会設置要綱第4条第5項に基づきヤクシカ・ワーキンググループを設置する。

2 ヤクシカ・ワーキンググループの構成

【科学委員会委員】 5名

	矢原 徹一	九州大学大学院理学研究院教授(座長)
新任	小泉 透	(独)森林総合研究所 研究コーディネータ
	荒田 洋一	樹木医(屋久島在住)
新任	湯本 貴和	京都大学霊長類研究所教授
	松田 裕之	横浜国立大学大学院環境情報研究院教授

【特別委員】 4名

	手塚 賢至	ヤクタネゴヨウ調査隊代表(屋久島在住)
新任	鈴木 正嗣	岐阜大学応用生物科学部教授
	濱崎 伸一郎	(株)野生動物保護管理事務所関西分室長
	杉浦 秀樹	京都大学野生動物研究センター准教授

合計 9名

3 経緯等

平成22年 7月28日 平成22年度第1回屋久島世界遺産地域科学委員会において、ヤクシカ・ワーキンググループの設置について承認

平成25年 9月27日 第7回ヤクシカ・ワーキンググループ開催(屋久島町)

平成26年 2月28日 第8回ヤクシカ・ワーキンググループ開催(鹿児島市)

平成26年10月25日 特定鳥獣保護管理検討委員会及び屋久島世界遺産地域科学委員会ヤクシカ・ワーキンググループ合同会議開催(屋久島町)

※ 今回のヤクシカワーキンググループは、鳥獣保護法の改正に基づき新たに策定する第2種特定鳥獣管理計画を、世界遺産地域における個体数管理等を含む全島を対象とした計画として策定するため、特定鳥獣保護管理検討委員会とヤクシカワーキンググループの合同会議により本計画を検討することとした。

4 ヤクシカワーキンググループでの検討概要

(1) ヤクシカの目標頭数について

屋久島の暫定的な目標頭数は、実現可能性等を考慮して、20頭/km²。20頭/km²未満でも希少種への食圧が見られる地域では、10頭/km²。ただし、シカ被害対策は、暫定目標頭数まで減少させればよいのではなく、生態系への影響を軽減することを目的とする生態系管理が基本となるため、地域に応じた指標や目標を検討し、関係各機関が連携してモニタリングし客観的評価を行うこと。

(2) 地域別のヤクシカ対策について

地域によってヤクシカの生息密度と採食される植生による生態系への影響が異なることから、シカの移動が制限されるような河川を地区界とし検討し、地区ごとに設定した指標となる植生等への影響の度合いやその復元状態などを評価して、シカ捕獲等を検討することが重要。

(3) 世界自然遺産地域内におけるヤクシカ管理計画の策定

平成27年度には西部地域、安房林道、モッコヨム岳、南部地域等の世界遺産地域内のヤクシカ管理に踏み出すために、平成26年度は準備・調整期間とし、捕獲の目的やその手段、目標などを明らかにすべきである。

(4) 平成25年度ヤクシカの生息状況等について

平成25年度のヤクシカ生息数は、約1万7千から3万1千頭程度と推定され、有害捕獲が徹底的に実施されている集落周辺の民有林では減っている箇所もあるが、屋久島全体としては減っていないと考えられる。

ヤクシカの推定生息頭数やその増減については、調査方法や調査点数等に課題があり正確でないと考えられるので、精度を高める工夫が必要。

平成25年度ヤクシカの捕獲実績については4,032頭(前年実績:3,507頭)であり、国有林内での捕獲についても、これまでの職員捕獲に加え、屋久島町と猟友会との協力を得て、猟友会による捕獲も実施した。

国有林等での捕獲については、専門的捕獲従事者による新しい捕獲手法の検討も含め、関係機関が協力し、より一層、捕獲を推進する必要があること。

5 平成26年度の検討事項等

(1) ヤクシカの生息状況等について

(2) 第2種特定鳥獣管理計画について

- ① 現行の特定鳥獣(ヤクシカ)保護管理計画について
- ② 関係法令の改正概要について
- ③ 第2種特定鳥獣管理計画(素案)について